

播磨町

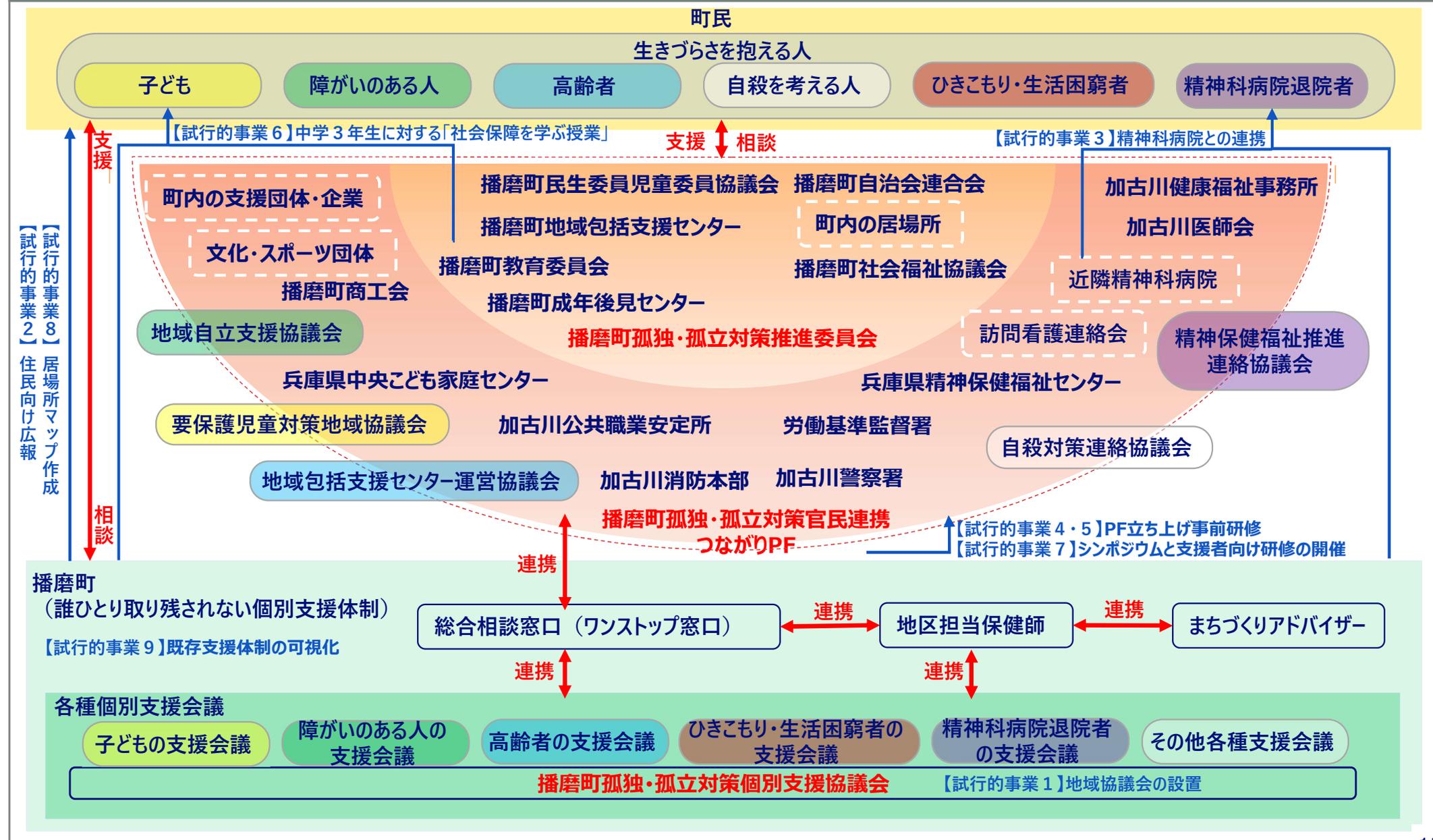


【A. 取り組みの全体像】

1.自治体の概要							
	自治体名		播磨町	担当部局名	福祉保険部健康福祉課	人口	33,604 (人) <令和2年10月/国勢調査>
	自治体内連携	庁内連携部局 (メイン) 連携内容	こども課、保険課、協働推進課 (まちづくりアドバイザー) アウトリーチ型相談支援体制構築の検討、孤独・孤立対策の具体的施策を立案実施	庁内連携部局 (メンバー) 連携内容	庁内全ての部局 (企画課、危機管理課、総務課、税務課、債権管理課、協働推進課、産業環境課、住民課、保険課、健康福祉課、こども課、都市計画課、営繕課、土木課、上下水道課、教育委員会教育総務課、教育委員会地域学校教育課、議会事務局、会計室) 孤独・孤立の情報共有をするとともに、連携して施策を実施する		
2.形成をめざす地方版連携PFの姿							
従前の取り組み <small>※重層の取り組み、外部組織連携、地域コミュニティ形成等</small>	<input type="checkbox"/> 総合相談窓口の設置 <input type="checkbox"/> 自殺防止対策PFの立ち上げと運営 <input type="checkbox"/> 高齢者、子ども、障がい者等の各福祉部門についての支援計画を策定		実現したい状態 <small>※構築する仕組み／支援対象の住民を取り巻く環境</small>	今年度のゴール 最終的なゴール	<input type="checkbox"/> PF立ち上げの事前準備として、PF参画団体を募るとともに、PF参画候補団体へ孤独・孤立問題についての学ぶ機会を設ける <input type="checkbox"/> 全庁で連携した孤独・孤立対策に向けた、庁内連携作り <input type="checkbox"/> 社会的孤立をはじめとして、 生きる上での困難・生きづらさのあるすべての町民 を支援できる体制		
	3.地方版連携PFの外部連携体制				4.PF連携による価値や工夫_考え方		
地方版連携PF 立ち上げ年度 令和7年度 (予定)	参画メンバー (予定)	兵庫県精神保健福祉センター、兵庫県中央こども家庭センター、加古川健康福祉事務所、加古川公共職業安定所、加古川警察署、加古川消防本部、加古川医師会、播磨町教育委員会、播磨町社会福祉協議会、播磨町民生委員児童委員協議会、播磨町地域包括支援センター、播磨町地域自立支援協議会、播磨町自治会連合会、播磨町商工会、労働基準監督署、播磨町内の賛同企業、町内の支援団体、文化・スポーツ団体、町内の居場所、訪問看護連絡会、精神科病院、播磨町成年後見センター				<input type="checkbox"/> 福祉以外の分野の団体も多数参画 している自殺防止対策PFの目的に孤独・孤立対策を加えて改称することで、既存のコミュニティを生かしつつ、よりアクティブに活動を行う場として、孤独・孤立対策PFを立ち上げる。 <input type="checkbox"/> PFでは、町からのインプットや協力依頼だけでなく、参画メンバーの課題感やニーズを適宜調査することで、 双方向に連携しながら孤独・孤立対策を実施する。	
	選出・打診時の工夫	自殺防止対策PF参画団体。また、居場所づくり等孤独・孤立への支援を意欲的に行う活動団体を新たに選出・打診。新規選出にあたっては、庁内の部課長級へのアンケート調査により、各部署から提案してもらった。					
地域協議会 立ち上げ年度 令和6年度	参画メンバー	支援の対象となる者の生活実態等に応じて、支援に関係する機関及び団体、支援に関係する職務に従事する者、その他担当部長が必要と認める者					
	選出・打診時の工夫	協議会は、必要な時に必要な支援者が集えるように、参画メンバーの固定はしていないが、主に保健師、基幹相談支援センター、社会福祉協議会、地域包括支援センター等が協議会の中心となる。					

【B.連携PFイメージ】

5. 連携PFのイメージ図



【C.試行的事業】_一覧

6. 本年度に取り組む試行的事業の概要

試行的事業の
ポイント・工夫

- 生きづらさを感じるすべての町民を支援できる体制を構築する。
- 当事者支援と予防の観点から町民への周知啓発を行う。

事業名称	事業内容	目的／期待効果・KPI	実施時期	発注先 (予算)
1 地域協議会の設置	<ul style="list-style-type: none"> ・ 播磨町孤独・孤立対策個別支援協議会（地域協議会）を設置し、孤独・孤立問題の具体的なケースについて議論を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 孤独・孤立に関する具体的なケースについて構成機関等と連携し、切れ目のない支援を提供すること。 <p>成果検証結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 第1回地域協議会を開催し、ケースの検討を行った。 ✓ 精神科病院と保健師が連携して退院者への訪問支援を実施した。 	✓ 9月1日付	なし
2 住民向け広報	<ul style="list-style-type: none"> ・ 孤独・孤立問題やそれに対する町の取組、相談窓口について、チラシ及び町HPにて町民に向けて広報した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 孤独・孤立問題の現状と、それに向けて町が取り組もうとしていることを町民に広く周知すること。 <p>成果検証結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 町内12,978世帯に全戸配布を行った。 ✓ チラシを見て相談窓口を訪れるケースがあった。 	✓ 10月17日 (木) 納品	作成：ニュー★ハリマ (約14万) 配送：加古郡広域シルバー人材センター (約1万)
3 精神科病院との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・ 近隣4つの精神科病院と担当保健師等との情報連携体制を構築し、精神科病院退院者を町で受け入れる体制を作った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 精神科病院退院者を町で受け入れる体制を構築し、退院後の孤独・孤立を予防すること。 <p>成果検証結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 第1回協議会を受けて、精神科病院と保健師が連携して退院者への訪問支援を実施した。 	✓ 10月～	なし
4 PF立ち上げ事前研修 (部課長級向け)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 庁内部長級・課長級及び主要な関係機関に対し、孤独・孤立問題の概要及び町の今後の取組について周知し、庁内が一体となって取り組む体制を作った。 ・ 事前研修後には、研修講師である大西参与と播磨町長、播磨町福祉保険部、播磨町社会福祉協議会、播磨町で孤独孤立対策に取り組む民間企業とで意見交換会を実施し、今後の取組や連携について確認した。 ・ 後日、本研修のフィードバック会を実施し、大西参与と主担当部署、関心の強い庁内課長補佐級以上の職員とで、PFと各課との関わり方や具体的な取組について対話した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 庁内及び関係機関の孤独・孤立問題についての理解を深め、孤独・孤立対策への連携体制を築くこと。 ・ 孤独・孤立問題に対する町の方向性を庁内関連部署間で共有すること。 <p>成果検証結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 事前研修には町長、副町長を含む総勢64名が、フィードバック会には孤独・孤立対策に強く関心を持った24名の課長補佐級以上の職員が出席した。 ✓ アンケートによると、本研修を受け、半数以上の部課長級が、PFを自身の部署で活用できると感じた。 ✓ 本研修に出席した別部署の課長の発案で、庁内職員に対して孤独・孤立対策を呼び掛ける庁内放送が実施されたり、本研修のフィードバック会や若手職員向け研修（試行的事業⑨）が実現した。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 庁内研修 11月18日 (月) ✓ フィードバック会 12月16日 (月) 	大西参与 (謝金 約5万+交通費)

【C.試行的事業】_一覧

6. 本年度に取り組む試行的事業の概要

試行的事業の
ポイント・工夫

- 生きづらさを感じるすべての町民を支援できる体制を構築する。
- 当事者支援と予防の観点から町民への周知啓発を行う。

事業名称	事業内容	目的／期待効果・KPI	実施時期	発注先 (予算)
5 PF立ち上げ事前研修 (若手・中堅職員向け)	来年度以降の孤独・孤立対策部会を主に担っていく全庁の若手・中堅職員に対し、孤独・孤立問題の概要及び町の今後の取組について周知した。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 庁内全体の孤独・孤立問題についての理解を深め、孤独・孤立対策への連携体制を築くこと。 ・ 孤独・孤立問題に対する町の方向性を庁内関連部署間で共有すること。 <p>成果検証結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 全庁の若手・中堅職員67名が出席した。 ✓ 出席者からは、孤独・孤立問題が福祉分野だけでなく自分の担当課でも取り組めることや、当事者意識を持ったこと等の感想があがった。 	✓ 3月4日(火)、3月5日(水)	大西参与(謝金約8万円+交通費)
6 中学3年生に対する「社会保障を学ぶ授業」	<ul style="list-style-type: none"> ・ 町内の中学校2校の中学3年生に対して、孤独・孤立にならないため、さらには孤独・孤立した際に頼るための社会の仕組みについて授業した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大人になって困ってからではなく、子どものうちに社会の仕組みを学ぶことで、将来的な孤独・孤立を予防すること。 <p>成果検証結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 播磨町の中学3年生305人が出席した。 ✓ 出席した生徒が、授業内容を親に伝え、後日親子で総合相談窓口に就労相談に来所した。 ✓ 授業の感想では、社会保障について学べて有難かった、困ったら一人で抱え込まずに相談しようと思った等の声上がる等、孤独・孤立の予防や援助希求力向上につながった。 ✓ 中学校長から、次年度以降も授業を継続してほしいとの要望を受けた。 	✓ 3月7日(金)	横山様(約6万+交通費)
7 支援者向けシンポジウム開催	<ul style="list-style-type: none"> ・ 孤独・孤立対策PFの前身である自殺防止対策PF参画団体及び今後孤独・孤立対策PFに参画してもらいたい団体等に対してシンポジウムを開催した。 ・ 孤独・孤立問題とその支援に関する基調講演と、播磨町長や播磨町ふるさとPR大使、民生委員児童委員、播磨町で孤独・孤立対策に取り組む民間企業や支援団体によるパネルディスカッションを行った。 ・ 来場できなかった支援者や住民にも孤独・孤立対策とその支援について周知啓発をするため、町公式YouTube配信を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 既存の自殺防止対策PF参画団体及び孤独・孤立の支援者に対し、孤独・孤立支援について学ぶ機会を作り、より効果的な支援を実現すること。 ・ 孤独・孤立対策PFへ参画してもらうこと。 <p>成果検証結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 123名が来場した。 ✓ 来場者の91%が孤独・孤立問題とその支援への理解が深まったと回答した。 ✓ アンケートによると、来場者の69%がPFへの参画に関心を示した。 ✓ アンケートから、PFで取り扱ってほしいテーマのニーズが明らかになり、今後のPF立ち上げ計画に反映していく。 ✓ 今回のシンポジウム及び交流会を受けて、支援者同士でつながりができたという声があがった。 	✓ 1月18日(土)	神戸新聞事業社(約149万)

【C.試行的事業】_一覧

6. 本年度に取り組む試行的事業の概要

試行的事業の
ポイント・工夫

- 生きづらさを感じるすべての町民を支援できる体制を構築する。
- 当事者支援と予防の観点から町民への周知啓発を行う。

事業名称	事業内容	目的／期待効果・KPI	実施時期	発注先（予算）		
8 居場所マップ・動画の作成	<ul style="list-style-type: none"> • 町民の居場所となる居場所のマップを作成して町民へ配布するとともに、既存の居場所を紹介する長尺動画と播磨町の窓口やつながりのあたたかさを端的に伝える短尺動画を作成して町公式YouTube、公共施設等で配信した。 	<ul style="list-style-type: none"> • 孤独・孤立を予防し、かつ孤独・孤立した人を支える場でもある「居場所」について町民に広く周知すること。 • 町民の居場所を増やすこと。 <table border="1"> <tr> <td>成果検証結果</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ✓ マップは全戸配布や公的機関、居場所にて計14,550枚配布した。 ✓ 既存の居場所からは、引きこもりになっていた方等がマップを見たことをきっかけに通ってくれるようになった等、居場所に足を運ぶ人が増えたと報告された。 ✓ 令和7年4月より、新たに居場所が1つ開設されることとなった </td> </tr> </table>	成果検証結果	<ul style="list-style-type: none"> ✓ マップは全戸配布や公的機関、居場所にて計14,550枚配布した。 ✓ 既存の居場所からは、引きこもりになっていた方等がマップを見たことをきっかけに通ってくれるようになった等、居場所に足を運ぶ人が増えたと報告された。 ✓ 令和7年4月より、新たに居場所が1つ開設されることとなった 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 動画：12月27日（金）納品 ✓ マップ：2月18日（火）納品 	動画・冊子作成：Roof（約187万） 配送：加古郡広域シルバー人材センター（約1万）
成果検証結果	<ul style="list-style-type: none"> ✓ マップは全戸配布や公的機関、居場所にて計14,550枚配布した。 ✓ 既存の居場所からは、引きこもりになっていた方等がマップを見たことをきっかけに通ってくれるようになった等、居場所に足を運ぶ人が増えたと報告された。 ✓ 令和7年4月より、新たに居場所が1つ開設されることとなった 					
9 支援体制の可視化	<ul style="list-style-type: none"> • 支援体制（相談・会議体）のあり方を整理、課題を抽出し、孤独・孤立対策PFの体制を検討した。 	<ul style="list-style-type: none"> • 既存の支援体制を過不足なく孤独・孤立対策に巻き込み、新規体制も立ち上げ、漏れなく支援できる体制を築くこと。 <table border="1"> <tr> <td>成果検証結果</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 既存の支援体制として5つの会議体を孤独・孤立対策として組み込んだ。 ✓ 既存の支援体制から零れ落ちるケースを受け止める会議体として、地域協議会を立ち上げた。 </td> </tr> </table>	成果検証結果	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 既存の支援体制として5つの会議体を孤独・孤立対策として組み込んだ。 ✓ 既存の支援体制から零れ落ちるケースを受け止める会議体として、地域協議会を立ち上げた。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 7～12月 	なし
成果検証結果	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 既存の支援体制として5つの会議体を孤独・孤立対策として組み込んだ。 ✓ 既存の支援体制から零れ落ちるケースを受け止める会議体として、地域協議会を立ち上げた。 					

7. 次年度以降に向けた事業等の案

※PDCAサイクルに照らして次年度以降に取り組んでいく事業イメージ（あれば）を例挙

- 孤独・孤立対策の周知啓発を継続する。
- PFのあり方について、試行的事業の全庁への事前研修や支援者向けシンポジウムでの意見を踏まえ、播磨町に合ったかたちで、令和7年度にPFを立ち上げる。
- 各年度のテーマ（課題）を設定し、PFの集いを毎年1回実施する。
- 試行的事業を評価した上で、中学3年生に対する授業を毎年実施する。
- 社会福祉協議会と連携をしながら、町内の居場所の増加を図る。
- 地域の団体等からの情報をもとに、支援が必要な対象者に対し保健師等がアウトリーチを行い、必要な人は居場所等へつなぐ。

8. 孤独・孤立対策を公表した際の反響

- 包括連携協定を締結している民間企業から、共に孤独・孤立対策に取り組んでいけたらという意思表示をいただいた。

【C.試行的事業一覧】_1.地域協議会の設置

概要

- 播磨町孤独・孤立対策個別支援協議会（地域協議会）を令和6年9月1日付で設置し、孤独・孤立問題の具体的ケースについて議論を行った。

工夫点

- 町民から相談窓口が分かりやすいよう、一括で「総合相談窓口」が相談を受け付けたいうえで各担当者につなぐ体制とした。
- 各ケースの認識をすり合わせられるよう、アセスメントシートを作成した。

ねらい

- 子どもや生活困窮者等の個別支援会議から零れ落ちるもの等、適切な個別支援会議がないケースも取りこぼすことなく支援をすること。

結果

- 第1回地域協議会を開催し、ケースの検討を行った。
- 第1回地域協議会を受けて、精神科病院と保健師が連携して退院者への訪問支援を実施した。

播磨町孤独・孤立対策個別支援協議会 開催概要

- ✓ 12月27日（金） 第1回播磨町孤独・孤立対策個別支援協議会開催

出席者：明石土山病院 地域連携室、播磨町社会福祉協議会、播磨町社会福祉協議会（ホームヘルプステーション）、就労継続支援事業所もりいぶ、相談支援事業所ライズアップ、播磨町健康福祉課、播磨町 基幹相談支援センター、播磨町 総合相談窓口

内容：本協議会の趣旨の認識共有、精神科病院退院者の具体的なケースについて検討、今後の支援方針決定

検討にあたっては、アセスメントシートにより、支援対象者がどのように社会と関わっているのか等を洗い出した。

- ✓ 1月17日（金） 支援対象者と支援者の顔合わせ

内容：本人の思いを把握

- ✓ 2月7日（金） 支援対象者自宅への訪問支援

内容：困りごと等のヒアリング（今後も経過観察を行う予定）

アセスメントシート（一部抜粋）

●支援対象者・相談者（世帯）の状況（必須）

受付機関名						受付日		担当者名	
名前	続柄	性別	年齢	職業 学校	同居 有無	年 月 日			
	本人								
					同・別				
					同・別				
					同・別				
					同・別				
社会関係圏（ゲテグム）									
例）行きつけのお店 ・民生委員 など									

●日常生活の状況（必須）

	食事	保清	衣類の着脱	排泄	移動	意思疎通	判断力・記憶	その他
自立								
一部介助								
全介助								
備考 (必要器具など)								

●支援対象者・相談者（世帯）の家計状況（任意）

項目	金額（円）	備考	時間	項目	内容
1ヶ月の収入					
合計	0				
負債の状況					
借入先	返済月額（円）	残額（円）			
合計	0				
資産等の現状					
預貯金		円			
固定資産	持ち家・車・その他（				
所持金		円			
保険等	生命保険・損害保険・その他（				
備考 例）生い立ち など					

工夫ポイント

アセスメントシートでは、経済状況や住環境等だけでなく、よく立ち寄る店舗や関わる人物等、**その人と地域との関係を可視化**した。

【C.試行的事業一覧】_2.住民向け広報

概要

- 孤独・孤立問題やそれに対する町の取組、相談窓口について、チラシ及び町HPにて町民に向けて広報した。

工夫点

- 確実に町民に届くよう、広報誌と一緒に全戸配布を行ったほか、広報誌が送付されない町民にも届くようHPにも掲載した。

ねらい

- 孤独・孤立は誰でもなり得る身近な問題であると町民に知ってもらうこと。
- 孤独・孤立を予防し、対策するために町として取り組んでいることや相談窓口が用意されていることを町民に知ってもらうこと。

結果

- 町内12,978世帯に全戸配布を行った。
- 福祉会館や公民館、図書館等の公共施設やイベントでも配布した。
- チラシを見て相談窓口を訪れるケースがある等、支援につながった。

チラシとそのポイント

☞ 不登校や若者のひきこもり・自殺を予防したいという思いから、若者向けのデザインにした。

☞ 支援のあたかさや、切れ目のない支援であることが視覚的に分かりやすいよう、手をつないだイラストや写真を掲載した。

播磨町では 誰ひとり取り残されないまちをめざして
孤独・孤立対策の取組を推進していきます

孤独
ひとりぼっちと感じる精神的な状態
さみしいという感情

孤立
社会とのつながりや助けのない
または少ない状態

悩みや困りごと	孤独・孤立	複雑化・深刻化
<ul style="list-style-type: none"> ● 会社人間関係がうまくいかない ● 仕事を休みがちになった 	<ul style="list-style-type: none"> ● 頼れる人がいない ● 誰に相談したらいいかわからない ● どんな制度があるのかわからない 	<ul style="list-style-type: none"> ● 失業・生活困窮 ● ひきこもり
<ul style="list-style-type: none"> ● 一人での育児は大変 ● 仕事と家庭の両立が難しい 	<ul style="list-style-type: none"> ● 親子の健康状態の悪化 ● 不安による気持ちの落ち込み ● ネグレクト（育児放棄） 	

播磨町の孤独・孤立対策
 すべての人を優しく包み込み、共に支え合い、人と人の「つながり」が生まれるまちをめざし
 ○ 困ったときに気軽に声をあげられる・声をかけられる体制づくり
 ○ 孤独・孤立の予防
 ○ わかりやすい相談支援などに取組みます。

具体的な取組は裏面をご覧ください

播磨町

地域で孤独・孤立対策を進めていくための体制を整えます
 孤独・孤立対策のキーワードは「つながり」。
 つながるためのきっかけをどう作っていくのか、地域で何を行っていくのか、様々な団体と一緒に考え、取組を続ける体制を目指します。

◀ 播磨町のつどい場・居場所マップ
 QRコードを読み取るとマップがご覧になれます
 マップは随時更新していきます

播磨町の中学校で社会保障を学ぶ授業を実施します
 人生で困ったことが起きた時に「そういえば、こんな手助けがあったような…」と思い出してもらいたい。義務教育の最後に、みんなが安定した生活を送ることを保障する「社会保障制度」について分かりやすく伝えることで、これから生きていく上での助けになる、そんなきっかけを作りたいと考え実施します。

総合相談窓口
 ☎079-430-6000
 【火曜日～土曜日 午前9時から午後5時】
 fukusi03@town.harima.lg.jp
 それぞれの困りごとに応じた相談先につなぎます

私たちがあなたのサポートをします。お気軽にご相談ください。

福祉会館

【役場保健師・総合相談窓口・社会福祉協議会・地域包括支援センター スタッフ】

☞ 明るい未来に向けたイメージとなるよう、パステルカラー等の明るく柔らかいデザインとした。

☞ 読み手にとって分かりやすいことを最優先し、窓口はあえて総合相談窓口の1つのみを掲載した。

【C.試行的事業一覧】_3.精神科病院との連携

概要	<ul style="list-style-type: none"> 近隣4つの精神科病院と担当保健師等との情報連携体制を構築し、精神科病院退院者を町で受け入れる体制を作った。 	ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 精神科病院の退院者を町で受け入れる体制を構築することで、退院後に孤独・孤立を抱えることなく、安心して生活を送れるようにすること。
工夫点	<ul style="list-style-type: none"> 精神科病院からの理解を得るために、精神科病院の院長及び加古川健康福祉事務所が出席する別協議会にて頭出しをしたうえで、実際に健康福祉事務所や病院を訪問して説明を行った。 	結果	<ul style="list-style-type: none"> 第1回播磨町孤独・孤立対策個別支援協議会を受けて、精神科病院と保健師が連携して退院者への訪問支援を実施した。

連携経緯

播磨町の福祉政策のテーマである「誰ひとり取り残されないまち」の実現にあたり、支援の輪から零れ落ちる可能性があるケースとして、令和5年度から精神科病院退院者が注目されていた。ほぼ同時期に保健師によるアウトリーチ型支援も推進していたため、精神科病院と保健師とが連携して退院者の受け入れ態勢を整えるような連携ができないか検討を行った。

連携状況

- ✓ 8月7日（水） 自殺対策連絡協議会・精神保健福祉推進連絡協議会開催
近隣精神科病院の院長のうち1名及び加古川健康福祉事務所が本協議会の委員であったため、協議会時に本連携体制について頭出しを行い、事前に理解いただいた。
- ✓ 10月18日（金） 加古川健康福祉事務所、あかし保健所を訪問
加古川健康福祉事務所は以前から精神科病院退院者の地域移行に取り組んでいるため、今後は必要に応じて播磨町と情報連携し、ともに精神科病院退院者の地域移行に向けた支援体制を整えることについて同意を得た。
- ✓ 11月1日（金）、11月11日（月）、11月15日（金） 近隣4つの精神科病院を訪問
支援が必要なケースについて、播磨町と連携していくことの同意を得る。
- ✓ 12月27日（金） 第1回播磨町孤独・孤立対策個別支援協議会開催
本協議会の趣旨の認識共有、精神科病院退院者の具体的なケースについて検討、今後の支援方針決定
検討にあたっては、アセスメントシートにより、支援対象者がどのように社会と関わっているのかの社会関係図を作成した。
- ✓ 1月17日（金） 支援対象者と支援者の顔合わせ
本人の思いを把握
- ✓ 2月7日（金） 支援対象者自宅への訪問支援
困りごと等のヒアリング（今後も経過観察を行う予定）

☞ 工夫ポイント

- **対面にて事前に頭出し**をしておくことで、その後の連携がスムーズに進んだ。
- 連携を依頼する際は、病院へ**足を運んで直接依頼**した。

【C.試行的事業一覧】_4 .PF立ち上げ事前研修（部課長級向け）

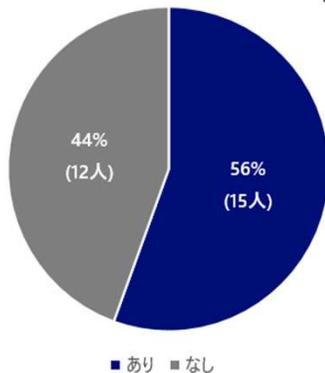
概要	<ul style="list-style-type: none"> 庁内部長級・課長級及び主要な関係機関に対し、孤独・孤立問題の概要及び町の今後の取組について周知し、庁内が一体となって取り組む体制を作った。 	ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 庁内全課に孤独・孤立対策への当事者意識を持ってもらい、町全体で取り組む連携体制を構築すること。
工夫点	<ul style="list-style-type: none"> 全庁の職員に当事者意識を持ってもらうために、町長にも出席してもらい、町全体で取組んでいく必要があることを話していただいた。 	結果	<ul style="list-style-type: none"> 事前研修には町長、副町長を含む64名が出席した。 本研修に出席した他部署の課長の発案で、庁内職員に対して孤独・孤立対策を呼び掛ける庁内放送が実施される等の取組が生まれた。

事前研修

【講師】認定NPO法人自立生活サポートセンター・もやい 理事長 大西連さん
 【出席者】64名（町長、副町長、全庁の部課長級職員、社会福祉協議会、地域包括支援センター、成年後見センター、兵庫ヤクルト販売株式会社等）
 【受講者アンケート】
 56%の受講者が、所属部署で孤独・孤立対策PFを活用できると見込んだ。また、PFに巻き込める団体として、**スポーツや文化関係の団体**等の名前があがった。

Q.所属部署にてPFを活用できる見込みの有無

回答数=27人



フィードバック会

【アドバイザー】認定NPO法人自立生活サポートセンター・もやい 理事長 大西連さん
 【出席者】24名（孤独・孤立対策に強く関心を持った課長補佐級以上の職員）
 【内容】PFのあり方や、各部署とPFがどう関わるのか、各部署でできる孤独・孤立対策について対話した。



工夫ポイント

➤ 出席者からの反響を受けて、当初予定していなかったフィードバック会や若手職員向け研修を開催する等、**出席者の意向を反映して柔軟に拡充**を行った。

その後

- 研修を受けた他部署の課長の提案により、**孤独・孤立対策への協力を求める庁内放送**が2週間にわたり放送された。
- 研修を受けた他部署の課長の提案により、**試行的事業5「PF立ち上げ事前研修（若手・中堅職員向け）」が実施**された。
- 職員研修**において、孤独・孤立対策について職員に広く呼びかけられた。
- 他部署の男女共同参画推進事業において、**孤独・孤立対策のPR動画放映や啓発チラシ配布**が行われた。

【C.試行的事業一覧】_5.PF立ち上げ事前研修（若手・中堅職員向け）

概要

・来年度以降の孤独・孤立対策部会を主に担っていく全庁の若手・中堅職員に対し、孤独・孤立問題の概要及び町の今後の取組について周知した。

工夫点

・福祉分野に限った問題ではなく、全庁として取り組む問題であることを周知するため、総務課と担当部署の連名で全庁研修として案内してもらった。

ねらい

・庁内全体の孤独・孤立問題への理解を深め、孤独・孤立対策への連携体制を築くこと。
・町としての孤独・孤立対策の方向性を全庁で共有すること。

結果

・全庁の若手・中堅職員67名が出席した。
・出席者からは、孤独・孤立問題が福祉分野だけでなく自分の担当課でも取り組めることや、当事者意識を持ったこと等の感想があがった。

研修概要

【講師】

認定NPO法人自立生活サポートセンター・もやい 理事長 大西連さん

【出席者】

67名

※全3回に分けて全庁の若手・中堅職員に対して実施

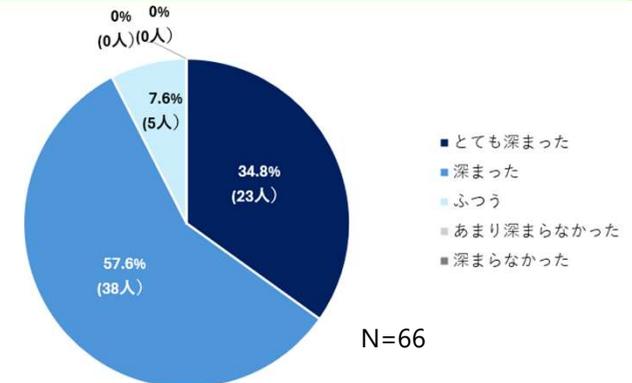
【コンテンツ】

- ・講師による孤独・孤立問題に関する講義
- ・各部署でできそうな孤独・孤立対策について話し合うグループワーク



アンケート・感想

Q.孤独・孤立問題とその支援についての理解は深まったか



Q.研修の感想（一部抜粋）

- ✓ 孤独・孤立問題を**福祉的な問題として捉えるだけでなく**、大きなプロジェクトとして、**連携・協働しながら支援、対策を講じていくことが重要**であると感じました
- ✓ 自分に関係ない、他部署のことと思うのではなく、一人の人として、行政職員として、**自分のことと捉えることが大事**と学びました
- ✓ **自分だけだと思いつかなかった自分の担当課でできる案が**、他課の人からたくさん出てきて面白かったです

☞工夫ポイント

- **孤独・孤立問題を自分事として捉え、依頼を待たずとも自主的に取り組んでもらえるよう**、自分の部署でどのような孤独・孤立対策ができるのかを検討してもらった。
- 自分の業務について考えるだけでなく、**外からの視点・発想を活かした孤独・孤立対策を検討**するために、グループワークは、様々な部署の職員が混合となるようにグループ分けをし、グループメンバーの部署でどのような孤独・孤立対策ができそうか、他部署のメンバーから提案を行った。

【C.試行的事業一覧】_6.中学3年生に対する「社会保障を学ぶ授業」

概要	<ul style="list-style-type: none"> 町内の中学校2校の中学3年生に対して、孤独・孤立にならないため、さらには孤独・孤立した際に頼るための社会の仕組みについて授業した。 	ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 大人になって実際に孤独・孤立してからではなく、子どものうちに社会の仕組みを学ぶことで、将来的な孤独・孤立を予防すること。 万一孤独・孤立した際の援助希求力を高めること。
工夫点	<ul style="list-style-type: none"> 教育委員会の理解を得るとともに、内容や運営の打合せに出席してもらおう等、連携しながらすすめた。 欠席の生徒に対応するため、町公式YouTubeチャンネルで配信をする。 	結果	<ul style="list-style-type: none"> 播磨町の中学3年生305人が出席した。 授業の感想では、社会保障について学べて有難かった、困ったら一人で抱え込まずに相談しようと思った等の声が上がった。

授業概要

【日程】3月7日（金）

【講師】

NPO法人 Social Change Agency 代表理事 横山北斗さん

【対象者】

町内2つの中学校の中学3年生

👉 工夫ポイント

- これからの様々な人生のピンチに備えることができるよう、**義務教育を終えてこれから社会に出ていく中学3年生の、卒業前の時期**に授業を行った。

【コンテンツ】

様々なトラブルが起きたときに活用できる社会保障制度や相談窓口

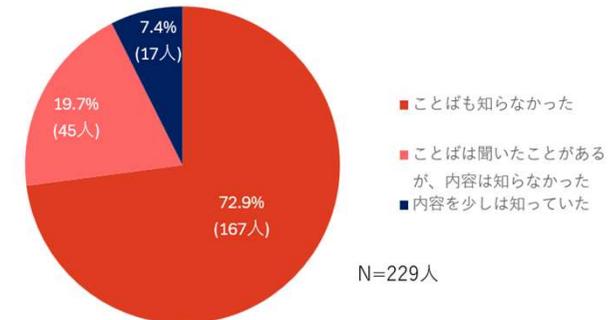


👉 工夫ポイント

- **教育委員会に直接趣旨を説明して賛同いただいたうえで、先方から提案いただく形で企画した。**学校とのやりとりも教育委員会に行ってもらったり、打ち合わせにも同席してもらったりと**積極的に巻き込み、当事者意識をもって取り組んでもらった。**

アンケート・感想

Q.民生委員・児童委員について周知できた割合



Q.授業の感想

- ✓ 自分が大変な状況にある時に、**しっかりと助けてくれる制度があるのはすごいな**と思っし、自分がもし大変な状況に陥ってしまったときに自分に合った制度を使いたいなと思いました
- ✓ **今回の授業を受ける機会がないと制度を知らなかった**から、とてもありがたいなと思いました
- ✓ 知識がないと損したり困るのは自分なので、しっかり知識をつけて、困ったときは相談していこうと思いました
- ✓ ピンチになったときは**一人で悩まず、役場や社会福祉協議会、総合相談窓口などに相談しよう**と思いました

【C.試行的事業一覧】_7.支援者向けシンポジウム開催

概要

- 孤独・孤立対策PFの前身である自殺防止対策PF参画団体及び今後新規で参画してもらいたい団体等に対してシンポジウムを開催した。

ねらい

- 孤独・孤立支援について改めて学ぶ機会を作り、より効果的な支援を実現すること。
- より多くの支援団体がPFに参画すること。

工夫点

- PFへのニーズを調査した。
- 来場者からの提案を受けて交流会を開催する等、柔軟に拡充を行った。

結果

- 123名が来場した。
- アンケート調査から、防災や居場所づくり等のテーマを取り扱ってほしいというニーズが明らかになった。

シンポジウム開催概要

【講師】認定NPO法人自立生活サポートセンター・もやい 理事長 大西連さん

【パネリスト】

兵庫ヤクルト販売株式会社代表取締役社長 阿部恭大さん、
播磨町民生委員・児童委員協議会副会長 衣笠誠一郎さん、
まちの居場所はりまある代表 市川佳代さん、播磨町「ふるさとPR大使」岡部祐希さん、播磨町長 佐伯謙作さん

☞工夫ポイント

- **福祉に偏らずに**孤独・孤立問題を議論できるよう、播磨町長やふるさとPR大使にも登壇いただいた。
- 幅広い視点から対談できるよう、**登壇者の年齢やジェンダーに偏りが無い**ようにした。

【コンテンツ】

基調講演、ふるさとPR大使による民謡演奏、パネルディスカッション、登壇者と来場者の交流会

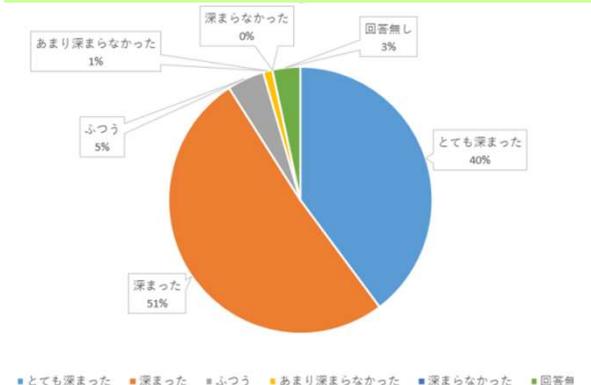
☞工夫ポイント

- 町全体で取り組んでいくことをアピールし、**場内の一体感を感じられる**よう、ふるさとPR大使による地元民謡の演奏を取り入れた。
- 支援団体からの意見を取り入れて、登壇者と来場者の交流会を開催した。

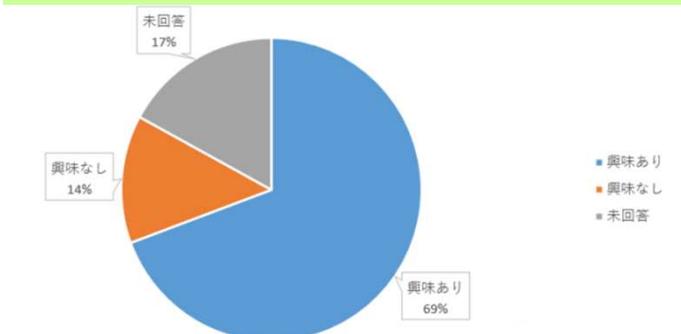


アンケート

Q.孤独・孤立問題と支援絵の理解度



Q.孤独・孤立対策PFへの参画意欲



【C.試行的事業一覧】_ 8.居場所マップ・動画の作成

概要

- 町民の居場所となる「居場所」のマップを作成して町民へ配布するとともに、既存の居場所を紹介する長尺動画と播磨町の窓口やつながりのあたたかさを端的に伝える短尺動画を作成して配信した。

工夫点

- マップ、動画ともに、居場所の活気やあたたかさを伝え、町民に親近感をもってもらえるように工夫した。
- 全戸配布とHP掲載で全町民に届くようにした。

ねらい

- 孤独・孤立を予防し、かつ孤独・孤立した人を支える場でもある「居場所」について町民に広く周知すること。
- 「居場所」へ気軽に訪れることができるようにすること。

結果

- マップは全戸配布や公的機関、居場所にて計14,550枚配布した。
- 既存の居場所からは、引きこもりになっていた方等がマップを見たことをきっかけに通ってくれるようになった等、足を運ぶ人が増えたと報告された。

マップ（一部抜粋）

05 ふれあいカフェ

居場所からみなさんへ
木の香りのログハウス・どんな所かな？ だれののおうちかな？ と思って訪れている方も多と思います。本日は9時からお昼までどなたでも来ていただいていいですよ。のんびりお茶を飲みながらお話しください。

居場所からの想い
こんな感じになったらいいな
日曜はお茶を飲んでおしゃべりするメンバーですが、四季折々にイベント（行事）ありの場・つなぐマツタニ。二階バーチャル・やきもち会等実施してさらに仲間の輪を広げていきたいです。



06 はりまみんなのおうち

居場所からみなさんへ
現在、週1回で開催をしているのですが、少し開催日をずやして通っている方も数多く見かけました。『より数回の頻りに』を設けたらいいなと思います。また、利用にはさまざまな事情からの方々が訪れている方もおられるので、その方々によっても人や機会と『つながる場』になればと思います。

居場所からの想い
こんな感じになったらいいな
今までお茶を飲んでおしゃべりするメンバーですが、四季折々にイベント（行事）ありの場・つなぐマツタニ。二階バーチャル・やきもち会等実施してさらに仲間の輪を広げていきたいです。



☺☺☺ コーヒー100円！
どなたでも来ていただいて良い集いの場です。



立ち上げの理由とは？
「居場所」のコンセプトは「つながる場」です。高齢者、若者、子ども、障害者など、さまざまな方々が集い、お茶を飲みながらお話しできる場を創出したいと考えています。また、地域活性化の観点から、地域資源を活用し、地域に根ざした居場所を創出したいと考えています。

基本情報
【開所日時】 毎週末曜日 9:00～12:00
【場所】 なでこの家（野添コミュニティセンター北館、西野添1丁目12番17号）
【参加費】 100円（お茶・お菓子代）
【お問い合わせ】 播磨町社会福祉協議会 079(435)1712

☺☺☺ つながりが弱くなっている方も！
みなさんが『つながる場』に！

居場所のコンセプトとは？
「居場所」のコンセプトは「つながる場」です。高齢者、若者、子ども、障害者など、さまざまな方々が集い、お茶を飲みながらお話しできる場を創出したいと考えています。また、地域活性化の観点から、地域資源を活用し、地域に根ざした居場所を創出したいと考えています。

立ち上げの理由とは？
「居場所」のコンセプトは「つながる場」です。高齢者、若者、子ども、障害者など、さまざまな方々が集い、お茶を飲みながらお話しできる場を創出したいと考えています。また、地域活性化の観点から、地域資源を活用し、地域に根ざした居場所を創出したいと考えています。

基本情報
【開所日時】 毎週末曜日 10:00～12:00
【場所】 播磨町福祉会館 2階アリススペース（東北1丁目3番5号）
【参加費】 無料
ただし、月1回（不定期）の試食会は1食100円。
【お問い合わせ】 労働者福祉協議会労働センター事業部 姫路地域福祉事業所 079(224)2188 播磨町社会福祉協議会 079(435)1712

☞ 工夫ポイント

- 居場所の活気やあたたかさが伝わるよう、**居場所の雰囲気**が伝わる写真や運営者の想いを掲載した。

動画（一部切り抜き）



☞ 工夫ポイント

- 居場所の活気やあたたかさが伝わるよう、**居場所の様子やインタビュー**を掲載した。
- 老若男女誰でも訪れることができることを伝えるため、**子ども、若者、高齢者それぞれのインタビュー**を掲載した。
- 明るいイメージとなるBGMを採用した。

【C.試行的事業一覧】_9.支援体制の可視化

概要

- 既存の支援体制（相談・会議体）のあり方を整理、課題を抽出し、孤独・孤立対策PFの体制を検討した。

工夫点

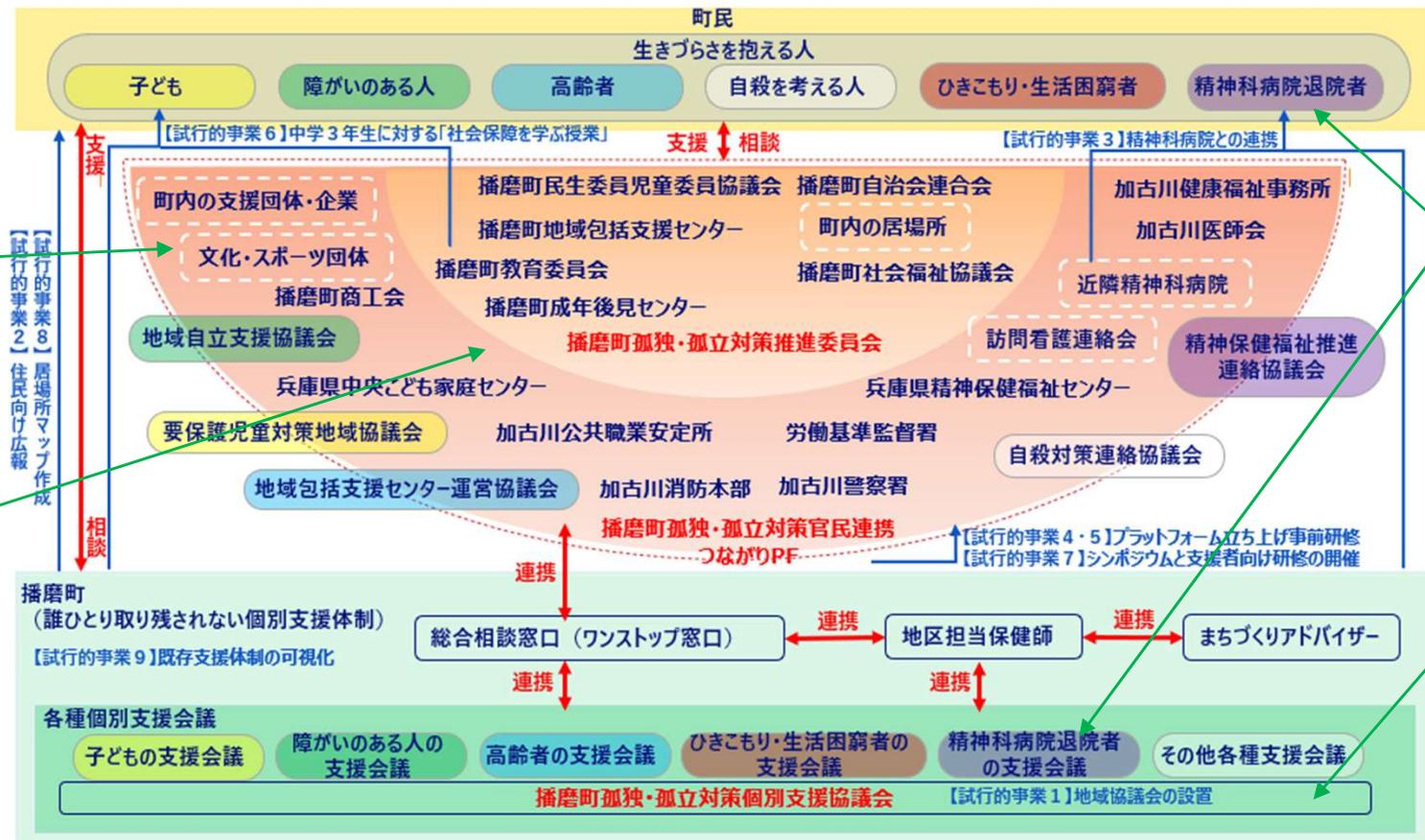
- PFのイメージ図は同心円状とし、町民に近いほど支援団体が多く、裾野が広がるイメージとした。

ねらい

- 既存の支援体制を過不足なく孤独・孤立対策に巻き込むこと。
- 既存の支援体制では支援しきれなかった部分に新規の支援体制を立ち上げることで、漏れなく支援できる体制を構築すること。

結果

- 既存の5個の会議体を孤独・孤立対策として組み込んだ。
- 既存の支援体制から零れ落ちるケースを受け止める会議体として、地域協議会を立ち上げた。



より町民から近い場所で支援を行う団体ほど町民に近い配置となるようにした。

PFのイメージ図は同心円状とし、コアメンバーである孤独・孤立対策推進委員会が中心となるようにした。

町民の属性と個別支援会議が対応していることが分かるように色分けした。

個別支援会議の隙間から零れ落ちるケースを受け止める体制として、個別支援協議会（地域協議会）があることが分かるように配置した。

【D.PF構築プロセスにおける留意点】



【E.ブレイクスルー要因】 既存組織の活用と顔の見える関係構築で、幅広い分野と連携

令和6年4月

令和6年6月～令和7年2月

令和7年3月

取り組み課題

- PFを新規で立ち上げるにあたって、何から始めればよいか、どう立ち上げればよいか分からなかった
- 「誰ひとり取り残されないまち」をめざし、「予防」として子どもの教育や、「対策」として精神科病院退院者への支援等が必要と考えたが、連携ハードルが高かった

その後の変化

- 自殺防止対策PFを拡充することで、既存の連携体制を活用
- 町内の中学校2校の中学3年生への授業開催
- 精神科病院と連携した支援の実施

アクション／ブレイクスルー要因

- まずは**既存の会議体の洗い出し**を行い、形骸化している自殺防止対策PFの枠組みが活用できる可能性を見出した
- 教育委員会と孤独・孤立対策に向けて連携したい旨を相談して趣旨に賛同していただき、**教育委員会から取組案を提案**をもらった
- 精神科病院院長が出席する協議会にて**連携依頼の頭出しを行った後、直接病院を訪問**して連携を依頼した